



精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築(「にも包括」)に取り組む自治体の皆様へ

対話でつくる! 「にも包括」の協議の場 チェックリスト 市区町村Ver



令和8年3月31日作成

活用ガイド

第8期障害福祉計画では、活動指標の一つとして「保健、医療及び福祉関係者による協議の場における目標設定及び活動状況の把握・評価」が示されています。このため、都道府県・圏域・市町村の協議の場では、関係者が集まり、地域の状況を共有しながら取組の方向性を考え、活動状況を振り返っていくことが求められています。

こうした協議の場を実質的に進めていくうえで欠かせないのが、「にも包括」事務局を含めたコアチームにおける対話です。異なる立場のメンバーからなるコアチームが、それぞれの視点から地域の状況や課題を持ち寄り、共通の認識のもとで協議の場の方向性を整理していくことが重要になります。

一方で、対話の重要性は理解されていても、「どの時期に、どのようなことを話し合えばよいのか」といった具体的な進め方は、経験に依存してしまい、分かりにくいことがあります。

そこで私たち研究班では、協議の場の運営を支えるツールとして、チェックリストを作成しました。これは、単に項目に を付けるためのものではありません。

「にも包括」事務局を含めたコアチームが協議の場を進めていく際の流れを想定し、時系列に沿って、各段階で確認や協議、点検ができるよう設計しています。まずはコアチームの中で活用し、それぞれの時期に必要な話題について対話を深める手がかりとしてください。

本チェックリストが、協議の場の取組を着実に進めていくうえでの一助となれば幸いです。

※コアチームとは、「市町村担当者（保健）、市町村担当者（福祉）及び基幹相談支援センターを中心に、保健所や医療機関等の関係者が参画し、協議の場の運営や検討内容の整理を担うチーム」のこと

目次

フェーズ I コアチームをどのように構成していきますか？
体制編

フェーズ II 「にも包括」の協議の場になっていますか？
基本情報編

フェーズ III 我が街を眺めると、どんなことがわかりますか？
地域診断編

フェーズ IV 年度計画はどのように予定していきますか？
設計編

フェーズ V 協議の場をどのように運営していきますか？
運営編

フェーズ VI 振り返りはどのように行っていきますか？
評価編

1年間の各フェーズの実施イメージ

4月



3月

*進め方は、事情や状況に応じて順序を入れ替えても構いません。

フェーズ

I

時期：4～5月

コアチームをどのように構成していきますか？

体制編

協議の場の実効性を高めるうえで、コアチームのメンバーを誰にするかは重要です。

チェックリスト

- 自治体内の単一部署にとどまらず、精神保健や精神障害者福祉に関わる庁内部署と協働できる体制になっていますか？
- 庁外の関係機関（基幹相談支援センター、医療機関、保健所など）と協働できる体制になっていますか？
- 近隣における精神科医療の提供状況を把握できる体制になっていますか？
- 都道府県や圏域の協議の場の実施状況を把握できる体制になっていますか？
- 「にも包括」に取り組む際の方向性や具体的な進め方について、全体を踏まえた助言を受けられる体制になっていますか？
- 「にも包括」の理念を踏まえ、我が街の目指す姿を多様な立場の人が話し合える体制になっていますか？

対話のヒント

- コアチームのメンバーが自治体の担当者だけの場合、テーマ（議題）に偏りが生じたり、負担が集中してしまうことがあります。幅広い視点で検討でき、持続可能な運営につながるよう、官民が協働したチームづくりを念頭に置きましょう。
- メンバー構成は「どの部署を呼ぶか」だけでなく、「どの人なら遠慮なく話せるか」という視点で考えてみましょう。
- 適宜、学識経験者や精神保健福祉センター職員など、広域的・専門的な知見を持つ者の協力も検討してみましょう。

フェーズ Ⅱ

時期: 4~5月

「にも包括」の協議の場になっていますか？

基本情報編

「にも包括」の協議の場の趣旨や役割について、まずコアチーム内で共通認識を形成し、そのうえで構成員に共有します。

チェックリスト

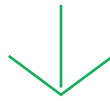
- 構成員に「にも包括」の理念と、協議の場の目的を共有していますか
- 地域の精神保健医療福祉の課題を検討する場になっていますか
- 目標の合意から実行、振り返りをするために、年に複数回開催していますか
- 精神障害をもつ人や精神保健に課題をもつ人が支援の対象として考えられていますか
- 構成員に保健・医療・福祉の関係者が偏りなく含まれていますか
- 精神障害をもつ人やその家族等の意見や思いを聴く機会が設けられていますか

対話のヒント

- まずは、コアチーム内のメンバーが「協議の場」にどのようなイメージを持っているかを確認することから始めましょう。そのうえで、「にも包括」の理念をもとに、協議の場の目的を合意していきましょう。国が示している「にも包括」構築のための手引き等も参照しながら、目指す姿や協議の方向性をすり合わせていくことで、共通理解が深まります。
- 精神保健に課題をもつ人が支援対象に含まれたことを踏まえ、どのような住民を対象とするのかをあらためて考えてみましょう。例えば、「診断の有無にかかわらず、生活の中で心の不調や生きづらさを抱えている住民も含むのか」といった視点で整理することが重要です。

前年度の「共通認識」

Blank area for previous year's shared understanding.



今年度の「共通認識」

Blank area for current year's shared understanding.



話し合い、MEMO

DATE

Horizontal lines for writing the result of the discussion and the date.

フェーズ Ⅲ

協議の場の初回開催前まで

我が街を眺めると、どんなことが わかりますか？

地域診断編

地域の状況をアセスメントすることは、協議の場を設計・運営していくための前提になります。

チェックリスト

【精神保健】

- 住民が、心の健康や精神疾患について正しく理解できるような取り組みが行われていますか
- 住民が自らの心の不調に気づき、適切に対処できるような取り組みが行われていますか
- 心の不調が疑われる住民を、専門職による相談につなげられる体制は整えられていますか

【精神医療】

- 精神科医療を必要とする住民が、適切なタイミングで受診できる体制は整えられていますか
- 医療機関と地域支援者が協働して、入院早期から地域移行に向けた支援が行われていますか
- 精神科病院の入院患者に、医療機関と地域支援者が協働して、権利擁護に必要な支援が行われていますか

【障害者福祉】

- 精神障害をもつ人を含めた家族（世帯）に包括的な支援が行えるよう、関係機関の連携が図られていますか
- 精神障害をもつ人が、他の人と平等に、希望に基づく就労や社会活動に参画できるよう、必要な支援や機会が確保されていますか
- 精神障害をもつ人が地域で生活するために必要な資源やサービスを過不足なく提供できる体制は整えられていますか



対話のヒント

- 各項目を○×で判断するのではなく、地域の体制における強みや課題を確認するための手がかりとしてください。その内容を共有したうえで、優先して取り組むべき事項について話し合しましょう。
- 公表されているデータ（精神保健福祉資料や ReMHRAD 等）や、都道府県・市町村で保有する精神保健医療福祉に関するデータを参考に、地域の状況について意見交換しましょう。
- 個別支援の事例や当事者の声、地域の支援者の経験など、現場で得た実感や気づきも大切な情報源となります。

前年度の「重点ポイント」



今年度の「重点ポイント」

結果

話し合い、MEMO

DATE _____

フェーズ IV

協議の場の初回開催前まで

年度計画はどのように 考えていきますか？

設計編

地域のアセスメントを踏まえ、評価可能な年度目標と計画を立てます。

チェックリスト

- 国の施策の動向や都道府県、圏域の協議の場の動きを踏まえて計画を考えられていますか
- 関連する他の協議会などの担当者と意見交換はできていますか
- 関連する自治体計画の内容や目標を取り入れることを検討しましたか
- 地域アセスメントや関連する情報をもとに、年度目標を明確に決めましたか
- 年度目標に対して、実施した内容の成果を確認できる活動指標や測定方法を考えていますか
- 協議の場の構成員は、目標やテーマに応じた顔ぶれとなっていますか
- スケジュールは、事前準備が十分にできる無理のないものになっていますか

対話のヒント

- コアチームで共有した「目指す地域の姿」の実現に向けて当該年度の目標を定めましょう。
- 目標は、現場の意見によるボトムアップだけでなく、政策課題を踏まえて設定しましょう。
- 年度末に振り返り・評価ができるよう、年度目標とあわせて、活動の実施回数などの活動指標や、精神障害をもつ人やその家族・関係者の実感、地域の変化を確認する方法もあらかじめ話し合っておきましょう。
- 方針が定まったあとに、協議の場の開催頻度、構成員、議題を調整しましょう。このように目標と評価、それらに合わせた協議の場の開催頻度等を含めた運営を一体的に考えていくことが重要です。

フェーズ V

各協議の場の開催時

協議の場をどのように 運営していきますか？

運営編

1 回ごとの協議の場では、情報共有を行うのか、地域課題の解決に向けた協議を行うのか、活動の振り返りや評価をするのかなど、目的を明確にして運営しましょう。

チェックリスト

- 協議の場の目的や年度目標が構成員に共有されていますか
- 構成員が所属機関内の意見や専門領域としての見解を持ち寄って、協議の場に参加できるよう事前に働きかけていますか
- 資料は、データの提示だけでなく、整理や分析を加えた形で提供されていますか
- 会議が円滑に進み、構成員が安心して参加できるようなルールが共有・徹底されていますか
- 構成員が主体的に意見を出しやすい進行となっていますか
- 課題の抽出や個別支援事例の検討にとどめず、今後の取組につながる提案まで話し合われていますか
- 精神障害をもつ人やその家族等の声を受け止め、議論に反映できていますか
- 必要に応じてワーキンググループを設置するなど、柔軟な運営ができていますか
- 毎回の議事録を作成し、構成員に共有していますか

対話のヒント

- 協議の場がどのような目的で設けられるのか、共通認識を持ち、構成員同士が意見を出しやすい雰囲気をどのように作るかを話し合しましょう。
- 当日の議論が深まるよう、事前の情報共有やアンケートの準備、関係者への根回しや御用聞き、終了後のフォローアップについて、誰がどのように担うかを決めておきましょう。
- 話題が実施報告にとどまらないよう、活動の内容や進捗・結果だけでなく、参加者や周囲の反応、業務への影響など、活動によって生じた変化も話し合うことを共有しておきましょう。

フェーズ VI

協議の場の年度最終回開催前

振り返りはどのように 行っていますか？

評価編

構成員同士や地域で共有できるよう、1年間の取組を可視化して振り返ります

チェックリスト

- 「にも包括」の取組が地域や業務に与える影響を、構成員の実感も踏まえて確認していますか
- 精神障害をもつ人やその家族等から評価を得る機会を設けていますか
- 有識者などから客観的かつ全体を踏まえた意見を得る機会を設けていますか
- 成果の指標とした取組の実施結果をもとに、年度目標の達成度を評価する機会を持っていますか
- 次年度に向けて、定めた年度目標を終結とするか継続とするかを検討していますか
- 集約した課題を、個別支援、地域の支援提供体制、制度や政策といった観点に分けて整理していますか
- 協議結果を関係者や住民に周知する機会を設けていますか

対話のヒント

- 年度目標に対して、どのような取組を行ったか、どのように協議してきたかを振り返りましょう。そのうえで、その結果、住民や地域にどのような影響があったかという視点で整理するために、どのような事前準備が必要かを話し合しましょう。
- 「にも包括」の取組成果について、構成員個人にとどまらず、所属する組織や構成員以外の関係機関、住民にどのように伝えていくかも話題とし、具体的な方法や工夫を話し合しましょう。
- 次年度に担当者が替わっても、協議の場の運営体制や進め方が引き継がれるよう、振り返りの内容をどのように整理し、共有していくか、その方法を検討しておきましょう。

最後に

協議の場の運営方法の詳細をお知りになりたい方は、厚生労働省のポータルサイトに掲載されている「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築のための手引き」などをご参照ください。

研究班では「にも包括」ロジックモデルおよび説明用ガイドを別途作成しています。ロジックモデルは、地域の現状や目標達成までの道のりを整理し、全体像が見える化するためのツールです。このチェックリストとあわせて活用することで、協議の場の目的や方向性をより捉えやすくなります。

作成者

第8期障害福祉計画の精神障害にも対応した
地域包括ケアシステム構築に係る
成果目標の見直しに資する研究

研究代表者 黒田 直明(国立精神・神経医療研究センター)

分担研究者 森山 葉子(国立保健医療科学院)

●分担研究者 岡田 隆志(福井県立大学)

作成協力

令和7年度精神障害にも対応した地域包括ケアシステム
構築支援事業「広域アドバイザー」のみなさま